

「災害時における介護福祉士の役割と現状確認について」結果の概要と総括

2023年8月28日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

本調査では、災害時における介護福祉士の役割を整理し、職能団体として国民の福祉の向上に寄与するための具体的な方法について検討することを目的に、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

【主な結果の概要】

1. 災害派遣福祉チーム（DWAT（DCAT））の存在は知られているものの、活動内容は十分には知られていない

回答者の多くが、災害派遣福祉チームの存在を聞いたことがある一方、活動内容については十分に知らないことが確認された。チーム員になるための研修について、多くの人が受講したことがないことも確認された。

2. 災害ボランティア研修の受講はしたことがない人が多いが、災害支援への関心は一定程度ある

災害ボランティア研修の受講をしたことがない回答者が多かったが、災害についての研修会・セミナー等へ参加したことがあるという回答が半数を占めており、災害支援についての関心は一定程度あることが示唆された。ただし、災害支援活動への参加は職場環境等に左右されるため、災害支援活動への参加には、難しさや葛藤があることも自由記述回答から窺い知ることができた。

3. 避難所の場所の確認や、避難訓練における地域との協力は十分にできているとはいえない

職場が福祉避難所に指定されているか、職場のある地域の一般的な避難所の場所について、2割程度の回答者が知らないことが確認された。また、職場の避難訓練への地域の人々の参加、地域の避難訓練への職場としての参加は、「ある」以外の回答が7割以上を占めていた。自由記述回答では、地域との協力や連携の重要性についての記述が多くみられ、実態との差があることが確認された。

4. BCP（業務継続計画）について、策定等の経過措置期間の終了が迫る中、2割程度が知らない

BCPの策定、研修の実施、訓練の実施等が義務付けられ、令和5年度末までは経過措置期間とされている。そうした制度の動きの影響を受けてか、回答者の多くがBCPを聞いたことがあり、職場の整備状況を把握している一方で、2割程度が知らないことが確認された。

5. 災害発生時において、介護福祉士として生活支援を担うことへの高い意識がある

自由記述回答では、災害が発生した際に介護福祉士としてできること・すべきこととして、介護を要する人々への介護福祉に関する知識や技術に基づく様々かつ具体的な支援が挙げられていたが、他方で、介護福祉士の役割の明確化を求める意見も複数見られた。災害時においては、介護福祉士として、安定的な日常生活への円滑な移行に向けた「生活支援」を担うことへの意識の高さがうかがえる。

【総括】

- ・ DWAT（DCAT）の活動内容を知らない、BCPが整備されているかわからない等の回答が少ないことから、これら災害支援や災害時の対応に関する情報を広め、理解を促進していく必要がある。
- ・ 災害支援についての研修や経験談を聴く機会が期待されるとともに、災害時における介護福祉士の役割の整理が求められていることから、災害時に介護福祉士が担うことができる役割の検討・整理を進めつつ、実際の活動実績の周知や、災害時の具体的な対応について学びを深める機会を提供していくことが望まれる。